

移住婚じわり 遠方に活路



東京

東京総局
〒100-8077
東京都千代田区
大手町1-7-2
電話 03-3275-8747
FAX 03-5255-6634
shuto@sankei.co.jp
広告 03-3275-8654

購読申し込み・
配達・集金

0120-34-4646

紙面・記事

0570-046460

Web

<https://www.sankei.com/region/>

(24日)
旧10月12日
《先負》



あすのこよみ

年齢	10.7
日出	6:25
日入	16:30
日出	14:27
月入	2:37
満潮	2:31
	14:34
干潮	8:28
中潮	21:08 (東京)

THE SANKEI NEWS
産経新聞

ウェブでも
ニュース
発信中



www.sankei.com/

地方への引越しを伴う「移住婚」が婚活者の間で広まりつつある。遠方の相手ともオンライン上でお見合いをする方法が浸透するなど婚活の手段がデジタル化したことが背景にある。出会いが多そうな東京だが、生涯未婚率の高さは都道府県別で1位。支援側はリモートワークの普及を追い風に、人口減少に悩む地方自治体と連携し、移住と婚活のダブル支援に力を入れている。(王美慧)

オンラインお見合い浸透

意気投合し決断

東急田園都市線三軒茶屋駅(世田谷区)の近くに住み、管理職だった女性(58)は数年前、結婚を機に退社し、住み慣れた都会の生活を手放した。縁もゆかりもない、夫(59)の住む新潟県十日町市に移住した。

女性は1人での老後に不安を感じ、結婚相談所に登録。都内在住者を希望したが、紹介された夫と意気投合し、移住を決断した。女性は「東京の空気の悪さと仕事に区切りを付けたかった。田舎たけど今の生活に満足している」と笑う。

とし、「最近ではリモートワークで海外も視野に住む場所にごたわらない人が増え、移住を前提に婚活する人も増えた。ご縁の幅も広がり、地方の活力にもつながる」と話した。

相性ズームでも

録者の母数が少なく探しにくい。逆に東京は人口が多く、遠方の相手も積極的に考える必要がある」と五十嵐さん。新型コロナウイルス禍を経てオンライン上でのお見合いなど婚活のツールも充実した

出で、ズームでお見合いした。女性は「画面越しでも話せば短時間で相性がわかる」と評価。

9月に婚約し、来年4月に夫が同市に移住して同居する予定だ。女性は「今までは身近な所で探していたが、巡り合わなかった。東京の人と結婚するとは思わなかったが、出会えてよかった」と話した。

自治体と連携して、移住婚を企画する一般社団法人「日本婚活支援協会」(港区)は、登録者に無料で移住を希望する地域の独身者との出会いの場を提供する。現在の受け入れ先は、北海道、福島、千葉、富山、長野、岐阜、京都の7道府県で、これまで約900人を各地に紹介し、移住婚の橋渡し役となっている。

仲人の藤原敬子さんは「コロナが落ち着いた後も、多忙や手軽さから会員の7割はズームでのお見合いを選ぶ傾向にある」とし、歓迎した。全国に結婚相談所を展開する「日本仲人協会」(新宿区)によると、コロナ禍で外出や会食の自粛で出会いの場が減った半面、オンラインでのお見合いが浸透したという。

同協会では、令和4年1月〜今年10月末までで、遠距離のカップル計36組が結婚し、移住。うち9割がズームでのお見合いだった。

自治体も橋渡し
移住と結婚をセットでサポートする取り組みも注目を集めている。

日本婚活支援協会代表理事の後藤幸喜さんは「登録者の半数が首都圏在住で7割が女性だ。都市部と地方の移住婚の流れをスタンダードにし、独身者たちに選択肢を提案したい」とした。



三軒茶屋に住んでいた女性は米農家の夫の妻がある新潟県十日町市に移住。自宅近くの風景
5月、新潟県(本人提供)